

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑪保護者との連携・協力と相談支援

- ◆ 特に印象的だったのは、目線1つで相手に与える印象がいかにか大きいかを体験的に感じられたことだ。些細なすれ違いや誤解から、大きなケースにつながることが多いと思うので、こういった細かな部分から気をつけていきたい。指導者と保護者が同じ方向を向いて協力していける関係をつくり、保護者も子どもも安心できる放課後支援施設を運営して行けたらと思う。
- ◆ 育児支援において、保護者と密接な連絡を取ることの大切さを理解して、様々な連絡方法のそれぞれの利点を把握し、目的に適したものを選択、あるいは、複数の方法や機会を組み合わせる工夫をして活用していくことが大切だと学んだ。保護者をマイナス面ではなく、別の角度・視点からプラス面として捉え、想いを正しく伝えるスキルで、コミュニケーションを図りながら、やわらかな関係づくりに役立てたい。
- ◆ 子どもだけでなく、保護者にとっても「安心の基地」や「安全な避難所」が必要だと感じました。また、保護者とのコミュニケーションでは、単に事実を伝えるだけでなく、「おもいやり」と「安心感」を生むために、非言語コミュニケーションの影響を考慮し、伝え方に工夫や配慮をすることが大切だと思いました。
- ◆ 感情や気持ちを伝えるコミュニケーションを取る際、身体表現が一番印象として残りやすいということが分かりました。身体表現が55%に対し、口調が38%、言語が7%で、言語がとても少なく驚きました。そのため、保護者や子どもと対応するときは、身体の向きや表情を大切にコミュニケーションをとっていきたくと思いました。また、子どもを1人の人間としてみることに、褒めること、認めることを心がけて保育をしていきたいと思いました。
- ◆ 想いを正しく伝えることは簡単なことではないからこそ、丁寧な関わりが必要だと再認識しました。保護者が安心して子どもを育て、子育てと仕事等を両立できるようにしていきたいです。どんな自分であれば保護者が相談・協力していけるか考え、子どもの様子を伝えるときは思いやりが伝わるように、支援員同士交流し、方法や内容について、改善・充実させていきたいです。相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、信頼関係を築くことに努めたいです。